

日本経済新聞

# ロボット開発増強

## 板金加工の三松 新型機器導入

新幹線部品も

板金加工の三松(福岡県筑紫野市、安岡貞勝社長)は一億五千万円を投

資し、ロボットや新幹線部品の生産を増強する。新型の切削器や大型レーザー機器を導入。自動車工場や半導体工場の受注拡大にも対応する。

新型の切削器を三千万円かけて導入し、四月からアームにカメラを組み合わせ、不良部品を自動的に抽出する品質検査ロボットを開発する。新機器の導入で一ミリの複

雑な歯車を製作、ロボットの駆動部が作れる。北部九州で集積している自動車部品工場や半導体工場の検査用に納品する。年間十万台を生産し、

受注高一億円を目指す。大型レーザー機器も五月、八千万円かけて導入する。アルミ加工の速度が二・五倍になり、板金の切り抜きの制御も従来の〇・五ミから〇・一ミ

まで細くなる。半導体製造装置のカバーを一・五倍に増産。月二十二台

生産する。受注高も前年比一・五倍の年七億八億円に伸ばす。

新幹線「のぞみ」の空調ダクトと電線ケーブルのケースも増産する。〇八年六月期で一億円の受注を目指す。総投資額の

うち五千万円分は社債を機構などが組成したファンド「チャレンジ九州・ド」が引き受けた。

中小企業ががんばらん